

第1回 物部川流域治水協議会

議事録

令和2年8月6日(木)

10:00~12:00

高知河川国道事務所4階会議室

1. 出席者

- ・高知市長 岡崎 誠也（代理出席：都市建設部長 岡崎 晃）
- ・南国市長 平山 耕三
- ・香南市長 清藤 真司
- ・香美市長 法光院 晶一
- ・高知県危機管理部長 堀田 幸雄（代理出席：危機管理部副部長 竹崎 幸博）
- ・高知県土木部長 村田 重雄
- ・四国地方整備局河川部長 堀 与志郎
- ・四国地方整備局高知河川国道事務所長 多田 直人

2. 設立趣旨・規約

○事務局

流域治水協議会の設立趣旨・規約、今後の進め方（案）について説明。

3. 議事

事務局、各自治体より、協議会での検討事項、治水対策の取組について説明。

○（事務局）

想定最大規模の降雨が降った場合の浸水想定区域図、浸水継続時間、家屋倒壊等氾濫想定区域をもとに、物部川水系の治水上の課題を説明するとともに、流域治水プロジェクト（たたき台）を説明。

○（高知県土木部、高知県危機管理部）

高知県が実施している現行の治水対策、防災情報提供アプリの開発、不動産関係団体の研修会等の場における水害リスク情報の解説、ダム下流域における浸水想定図の作成を説明。

○（高知市）

排水ポンプ車等の災害対策車両による操作訓練、重要水防箇所の合同巡視等の関係機関との連携、防災講演会、高知市洪水ハザードマップの全戸配布及び住民説明会の取組を説明。

○（南国市）

洪水浸水想定区域での防災学習、南国市防災連合会への情報提供及び勉強会、「生活まると防災」について説明。

○（香南市）

平時からの住民等への周知・教育・訓練として、夏休みこども防災学習、香南市総合防災訓練、医療救護訓練について説明。

○（香美市）

防災士と自主防災組織の連携、お天気キャスターとの防災教育、環境学習の取組について説明。

その後、意見交換を実施。

○（南国市）

堤防の整備という観点では、堤防の決壊を防ぐ対策を行っていただきたい。また、下田川流域は地盤高が低いこともあり、浸水深も深く、湛水が長期に亘るという課題がある。湛水を早期に解消するためには、排水ポンプ等の大規模な施設が必要な地域であると考えている。

○（香美市）

今年7月の降雨によって物部川の水が濁りだした。その後一か月間ほど経過しているが、現在も濁りが続いている。平成30年7月豪雨をうけて樹木伐採は進んだが、土砂掘削は進んでいない状況にあるため積極的に行っていただきたい。なお、掘削の際は、掘削土砂の処理にも配慮いただき、右岸の水衝部について堤防強化に活用することを考えてほしい。堤防強化については、可能であれば水衝部だけでなく、全川通じて行って欲しい。

○（国土交通省高知河川国道事務所）

堤防強化については、今後の議題の1つとしていきたい。掘削については、河川整備計画における整備メニューとして残っているのは下ノ村地区のみである。今後、気候変動を踏まえた河川整備計画を検討していく必要があり、その際の整備メニューとして掘削についても議論していきたい。

○（香南市）

物部川は濁水が顕著であり、治水と濁水はリンクする部分があると考えられる。ダムに堆積する土砂による濁水と支川の濁水がある。たとえば3市と県でダム上流域での対策も含め、濁水に関する事業に取り組むことによって、地域住民の関心も高まることが期待できるのではないかと。土砂堆積の対策は単年度ではなく長期スパンで考えていく必要があり、事業の規模も大きくなることから、本協議会を通じて河川事務所との連携を考えていけたら良いのではないかと。濁水（土砂）対策は物部川独自の対策としてインパクトもあるのではないかと。

○（国土交通省高知河川国道事務所）

ダムを絡めた土砂のコントロールの方法を考えていく必要があると考えている。3市と県での濁水に関する取り組みについては、関係機関で合意形成できれば、これまで河川管理者があまり関与できていなかった集水域の対策に挑戦するという点についてはやりがいのある取り組みであるとする。これまでは連携が難しかったが、本協議会を通じて挑戦していくというのは良いのではないかと。

○（香美市）

ダム貯水池内の土砂浚渫が課題であり、抜本的にダムの在り方について考えていかなければならない。ダム再生については河川事務所から技術的支援をいただけるのか。

○（高知県土木部）

現在ダム貯水池内の土砂浚渫に取り組んでいる。ダム再生については今後検討していく必要があるが、県だけで対応していくのは難しい部分もあると感じている。ダム再生の内容については、今後詰めていく予定である。

○（国土交通省高知河川国道事務所）

他河川では、国が県管理ダムの支援を行った事例もあり、技術的なアドバイスは可能である。永瀬ダムについては総合土砂管理的な議論になっていくのではないかと。必要に応じて、学識者の助言をうけて長期的な対策を検討することも考えられる。

○（香南市）

ダム放流の話があったが、放流をいつ・どの程度行ったかについて市の担当者にきちんと伝わっていない。ダム放流の連絡体制を整えていきたい。

○（高知県土木部）

ダム放流の連絡のタイミングについては、連絡会にて合意を得て決定している。放流1時間前の連絡や放流量増加の際に連絡を行っている。また、今年度からは、計画流量に達する場合にはホットラインで連絡することになった。現ルールにとどまらず、物部川で試験的にさらに事前のタイミングで連絡がほしいなどの要望があれば対応は可能である。

○（国土交通省高知河川国道事務所）

夜中から明け方に河川氾濫が起こった場合の避難が課題である。現状では、時間帯に関係なく水位によって避難の情報提供を行っているが、今後は長期降雨予測・洪水予測を踏まえて、時間帯を考慮した避難情報の提供を考えていくことも必要なのではないかと。とくに物部川は急勾配であることを鑑みると、情報提供のタイミングは重要である。例えば、豊岡市では台風の3日前程度から地域住民に連絡をしている。空振りを恐れずに早めの避難情報提供を考えていっても良いのかもしれない。

○（国土交通省四国地方整備局）

肱川ではダムの様子をケーブルテレビで配信する取り組みを行っている。避難指示を発令しても、住民が避難行動を起こさないという課題がある。避難指示が発令されたら、訓練だと思って毎回避難を行ってもらえるような意識を醸成していくことも必要と考える。また、逃げ遅れゼロを目指すことに加えてハード対策もきちんと行っていきたい。

○（高知市）

高知市は直接の流域ではないが、下田川の一部が氾濫区域にかかっている状況である。近年の水害の激甚化を考慮するとソフト対策のみならず、ハード対策が必要不可欠であると考え。掘削、樹木伐採、堤防強化等のハード対策を改めてお願いしたい。

○（国土交通省高知河川国道事務所）

長期湛水箇所については、これまで河川管理者としては浸水範囲を示すことしかできなかったが、社整審の答申にある通り、今回の流域治水では被害を軽減するという概念が含まれている。雨水排除をうまく使うことや近傍の河川に排水する対策が想定されるが今後協議していきたい。

○（国土交通省高知河川国道事務所）

本日いただいた意見としては、①堤防強化（粘り強い堤防）、②河道掘削、③集水域の整備、④ダムのあり方、⑤情報提供・避難のあり方、⑥長期湛水の対策の6つが主な観点であった。これらの対策案について取りまとめて、次回の協議会で議論いただくことを予定する。